

SSH 特別授業(国際貢献)が行われました

5月31日(火)に滝川国際交流協会の後援を得て、ベトナムで農村支援のNGO代表を務めている伊能まゆさんが来校し、1年・2年の理数科を対象に「国際貢献とは何か?」というテーマで特別授業を行いました。

伊能まゆさんは2009年にNGO団体「Seed to table~ひと・しぜん・くらしつながる~」を設立し、日本の外務省や環境省、ベトナム地方省庁等と連携し、農村・漁村の貧困地域で農業だけでは安定した収入を得られない人や、土地を持たずに日雇の仕事で生計を立てる人々に対して持続可能な生産・暮らしができるような支援活動を行っています。

特別授業の中で、まずベトナムの農村地帯の現状が述べられました。ベトナムの市場経済導入後、都市部と農村部の経済格差が広がり、物価高や生産コスト高が農民たちの暮らしを圧迫していること。加工品を作るノウハウを持っていないこと。気候変動や環境汚染により、生産力の低下を招いていることなどがあげられました。いずれも世界的な規模での経済活動のために一部の人たちに利益が集中し、一生懸命に働いている農民たちの生活が悪化しているのです。

伊能さんのNGO団体では、この問題点を解決するために、地域の人たちと協力して、地元の自然資源や人的資源を大いに活用して、生活環境や自然環境を改善し、地元のリーダーを育成し、地域の人たちが自立して次世代にそのノウハウを伝えられるようなサポートを行っています。

支援というととかく、施設を作ったとか資金提供するなどという「目に見える」支援を想像しがちですが、それでは地域の人たちの自立につながらない。そうでなく地域の人たちがじっくりとそのノウハウを学び、将来サポートなしでも発展していけるような取り組みをこの伊能さんのNGOでは目指しています。

生徒たちは、資金や国の援助でなくても民間の力で現状を変えている伊能さんの熱い語り口に感動し、「将来海外で働いてみたい。人の役に立つ仕事をして自分も達成感を味わいたい。」という前向きな感想をたくさん書いていました。

「グローバル社会」といわれている現在、グローバルな視点とローカルにも目を向けて課題を探し、それを解決する能力の必要性を痛感しました。



熱く語る伊能まゆさん



生徒からも積極的な質問が